浪速松楓会で、見る・知る・考える

るるる

Vol. 18

2023. February

今号の表紙
寿幸苑4階

PICK UP

1 夢に向かって、一歩ずつ。

2 時をかける 思い出写真

HELLO! NEW STAFF
鯉谷さんのひとりごと

夢に向かって、一歩ずつ。

「自宅でされていたし、お世話好きな方なので」と洗い物の再開を提案した永田さん（左）

憧れの仕事を目指して、昨年４月から職員として働き始めた介護士の永田さん。まもなく１年経とうしている今、改めてお話を伺いました。

昨年３月に大学を卒業し、寿幸苑の職員として働き始めた介護士の永田さん。もともと寿幸苑４階のケアマネジャー・藤田さんの紹介で、以前からアルバイトもしていました。「子どもの頃祖母に介護が必要になったんですが、その時担当してくれたケアマネさんの仕事に対する姿勢や適切にサポートする姿を見て『ケアマネジャーになりたい』と思うようになって。友達のお母さん（藤田さん）から『うちで働いてみたら』と誘ってもらい、勤務を始めました」（永田さん）。今は早出から夜勤まで担当するようになり、1日の利用者さんの生活が見られるようになったことで1日のケアや時間帯での変化を把握。その時に応じた介助の仕方を考えられるようになったそうです。「フロアで座っておられる方や日中横になっている入居者さんに対し、ご自分でできることを増やしてもらうにはどうするべきか常に気にかけています。施設で生活していても、楽しんでいただいたり日常の刺激を与えるにはどうすれば良いかなって」（同）。そんな永田さんについてリーダーの林さんは「当初は土日のみのアルバイトでしたが次第にできることも増え、自ら『別の時間帯も働きたい』と言ってくれて。４月からは居室担当などの役割も増え、入居者さんのために試行錯誤しながら日々頑張ってくれています」と話してくれました。

ケアマネジャー
藤田さん

永田くんは行動力が上がったなと思います。レクなども先輩職員の様子を見て学び、そのままするのではなく自分らしいやり方で実践できている。自分の頭で考えて動いているな、と成長を感じます。

特別養護老人ホーム 寿幸苑

お話をきいた人 /介護士の永田さん、リーダー 林さん・佐々木さん、ケアマネジャー 藤田さん

昨年、初任者研修を修了した永田さん。資格取得の勉強も頑張っている様子

通りには催しの写真などがたくさん

るるる日誌 －日々のできごと－

1

居室担当を務めるご入居者・藤澤さんと。「お好きなことやしたいことを叶えてあげられるように、動いていきたいと思っています」（永田さん）

2

「1分良いですか？」と、先輩職員へ質問することも多いという永田さん。「分からないことはすぐに質問しに来てくれる。勉強家だなと思います」（リーダー佐々木さん）

3

カラオケ レクの準備をする永田さん。「毎月いろんな催しを企画してくれて、周りの職員も巻き込みながら良い働きをしてくれるので感謝してます」（リーダー林さん）

時をかける 思い出写真

いろいろな所から反響がある
「職員さんの懐かしい写真特集」第３弾！
今回も“思わず拡大して見たくなる”フレッシュな写真が集まりました。

聞いた人：寿幸苑、ライフェル駒川、
本部の職員さん

山口さんが見せてくれたのは、専門学校の卒業式の日に先生や同級生と撮影した一枚。「高校まで野球部で、放課後も休日も部活漬けの毎日。専門学校は、部活によって拘束された生活から解放された２年間でした」

20才の頃、卒業式の日の
山口さん（右から２人目）

【　答えてくれた人　】

寿幸苑６階でリーダー・ケアマネジャー、施設全体の介護主任を務める山口大輔さん。「仕事による身体の疲れは、ソフトボールして取っています」と話してくれました。

思い出の海外旅行の写真を見せてくれた、看護師の寺田さん。「10代から病院で働き、看護師資格を取り、30代で職場の上司・先輩と海外旅行に行くのが好きでした。仕事も私生活も充実していて良い思い出となっています」

30代の頃の寺田さん（右から２人目）海外旅行先にて

【　答えてくれた人　】

寿幸苑の看護師として勤務する寺田ふみ子さん。「毎週日曜日は競馬などに特に力が入ります。コロナ禍ですが、たまに息子と外食。特に『煮干しらーめん 玉五郎』が好きです」

中学３年の西さん（後列中央）。大会で優勝時、はびきのコロセアムにて

「バスケ部だった中学生の時の写真。熱血顧問でほぼ休みがなく、練習が厳しかったのを覚えています。1年の時の市の総合体育大会は、私たちの代は全員初心者だったので最下位でしたが、３年の最後の大会では優勝！とても嬉しかったです」

【　答えてくれた人　】

ライフェル駒川の介護士・西こゆきさん。「よしもと漫才劇場でお笑いを観ることが好きで、配信も合わせると昨年50公演は観劇。おすすめは『ロングコートダディ』と『ダブルヒガシ』」

高校３年の福田さん（右下）
高校最後の試合にて

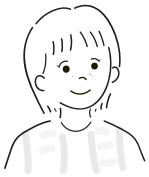
「写真は高校生の時。高校入学後『野球がしたい』と集まるも野球部がなく、5.6人で野球愛好会を始動。その後、約３年かけて部活に昇格！３年になる前やっと野球経験がある顧問が就任。試合はほぼできなかったけど、ワイワイ楽しかったです」

【　答えてくれた人　】

寿幸苑５階でリーダーを務める福田勇士さん。「中学でバスケ、高校で野球をしていたのでスポーツは好き。阪神タイガースのファンで、今の推しは梅野選手です」

「写真は約10年前。絵本作家さんが運営するカフェが四条畷にあると知り、友達とご飯に行きました。絵本が大好きで、作品を生み出す方を尊敬しているのでお会いできた時はドキドキでした。今もたまにお店に行き、雰囲気に癒やされています」

24才の頃の倉窪さん（右）
好きな絵本作家さんと



【　答えてくれた人　】

法人の広報を担当する倉窪聡子さん。「今回は急遽１枠空くことになり、飛び入りで参加しました。昔の写真を探し、見返したりして、思い出にひたる良い機会になりました」

「写真は、ホテル ニューオータニ大阪内の検診クリニックに勤務していた頃のもの。ホテル業務の裏側を知ったり、有名人からクリニックへ往診依頼があり豪華な部屋で診察の介助をしたり。ホテルの勤務でしかできない体験ができました」

20代の頃の河野さん。
元同僚と大阪城公園の
噴水前にて（左から２人目）

【　答えてくれた人　】

寿幸苑の看護師として勤務する河野 登希子さん。「趣味は登山。月に1回休みを合わせて行う娘２人との食事会（外食・娘の手料理）も楽しみで仕事をがんばっています」

TOPICS

各事業所で、ときには外にとびだして、最近行なわれた さまざまな活動を紹介します。

1 生演奏も楽しむ「イマ」のクリスマス

日時：12月18日（日）　場所：ライフェル駒川

コミュニティスペース「イマ」で行なうクリスマス会を今年も開催。ジャズ奏者の方にジャズを奏でてもらったり、入居者さんが知ってる『上を向いて歩こう』や『川の流れのように』を弾いてみんなで歌ったりしました。

2 サンタの装いでクリスマス会

日時：12月23日（金）　場所：GHサボテンの花

季節に合わせて催しをしているサボテンの花。この日は職員さんがサンタの仮装をしてささやかな品物をプレゼント。また、おやつにはトナカイを模したケーキやヒイラギの飾りが付いたケーキなどを食べて楽しみました。

3 地域の子ども達と、町に「ありがとう」

日時：12月25日（日）　場所：寿幸苑、生野銀座商店街の周辺

地域の方との交流活動に励むチームRe-Loが「親子サンタパレード」を開催。町の子ども達や保護者の方を招き、地域の方々ご協力のもと、在宅のご利用者さんや商店街のお店の方へ「いつもありがとう！」とプレゼントを贈りました。

4 花を生けてお正月支度

日時：12月27日（火）　場所：寿幸苑

4階藤田CM主導のもと、お正月に飾る生け花レクを華道部が開催。むかしお花をされていた入居者さんは「小原流や未生流って流派があってね」と職員に教えてくださいながら、久々の華道を楽しんでいました。

Hello! NEW STAFF

機能訓練指導員
山本 亜由美さん
（寿幸苑）

出身	千葉県浦安市
好きな食べ物	あわもり
好きなこと・特技	Minecraft

※12月～1月末の入職者を紹介しています

AND MORE!

ケアワーカー
西村 悠衣さん
（寿幸苑）

SNSも更新中！

浪速松楓会のいろいろな情報を、ゆるーく発信中！社内報では伝えきれない日常の様子や取り組みを紹介しています。気軽にのぞいて、気が向いたらイイネしてください♪

Facebookからも社内報を読むことができます。

寿幸苑　法人

鯉谷さんの ひとりごと No.018

10年間お疲れ様でした。

この2月で「小規模多機能型居宅介護サボテンの花」が閉鎖になります。2011年の開設以来丸10年、東住吉区の西今川で地域のために頑張ってきました。小規模多機能とは、訪問・デイ・ショートステイという3つの機能を備え、在宅生活をできるだけ続けたい人にとっての最後の希望であり、在宅復帰を目指す人にとっての大事な伴走役となる事業所です。サボテンの花はこの10年間、1歩1歩地域のためにいろんな工夫をしながら歩んできました。僕自身ときどき事業所にお伺いする機会がありましたが、その時は他の事業所にはなかなかない穏やかで温かい空気感を肌で感じることができました。運営としては難しい部分もありましたが、何とか地域のために継続していきたいと当初は考えていました。しかし、2020年以降のコロナや世界的なインフレなど厳しい環境が続くなかで法人として事業を継続していくことはやはり難しいと感じ、このような決断をすることになりました。職員の皆さんのおかげで喜んで頂いたたくさんのご利用者とご家族が居たことを僕は忘れません。長い間小規模を支えて頂いた皆さま、本当にありがとうございました。

浪速松楓会 社内報 るるる vol.18　発行日：2023年2月1日　発行元：社会福祉法人浪速松楓会　制作担当者：倉窪